

平成28年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会(水球)
第84回日本高等学校選手権水泳競技大会(水球)

水球競技戦評

期日：平成28年8月17日(水)～20日(土)

会場：児島マリンプール

ゲームNo.

13

帽子の色 白

埼玉栄高校

23

6	-	2
4	-	1
7	-	2
6	-	4
PS		

天候： 晴れ

帽子の色 青

長浜北星高校

9

審判1： 潮崎 正一

審判2： 佐藤 國寛

戦評

1回戦、十分にトレーニングしてきたゾーンディフェンスで山形工業を封じた前年度優勝校の埼玉栄に、得点力のあるエース水谷選手を中心にした長浜北星の攻撃がどこまで通用するかが勝負の分かれ目となる準々決勝の第1試合です。

第1ピリオド埼玉栄③相澤君のインターセプトからのカウンター攻撃を②鈴木君が決めて、埼玉栄が先制。しかし、長浜北星もエース⑦水谷君にボールを集め、センター位置から強引にねじ込んで1-1の同点に。このプレーは埼玉栄が警戒して3人でマークしたにもかかわらず、その間隙を突いての見事なシュートでした。しかしその後は、埼玉栄の安定したディフェンスで長浜北星の攻撃の芽を摘み、埼玉栄③相澤君、⑧長澤君が連続得点して差を広げます。長浜北星は終了時の⑧山瀬君の5mシュートが決まり、埼玉栄6-2長浜北星で第1ピリオド終了。

第2ピリオドも埼玉栄のディフェンスが機能します。選手交代を頻繁に行っても、全員が組織的にディフェンスすることで相手ボールを奪い、そこを確実に決めて点差を広げます。長浜北星は徹底的に⑦水谷君にボールを集めて戦況打開しようとし、ゴール前で退水を誘発してそこをシュート力のある⑧山瀬君が決めて1点を返しますが(3:14)、そこが限界。埼玉栄側はエース④阿保君がカウンター攻撃を連発して点差を広げました(埼玉栄10-3長浜北星)。

第3ピリオドも長浜北星は埼玉栄のディフェンスを突破できません。相手ボールを組織的ディフェンスで確実にボールを奪っての埼玉栄の攻撃の典型的なパターンが、最後尾で相手パスをインターセプトした⑩稲垣君がそのままドリブルで右サイドを猛突進し、自分でシュートを決めて15点目を奪った場面でした。しかし、長浜北星の⑦水谷君は徐々に対応できるようになり、ボールが右サイドにあるタイミングでドライブを仕掛けてシュートを決めたり(6:23)、外周からループシュートを決めたり(0:51)するような攻撃の幅を見せるようになりましたが、埼玉栄17-5長浜北星で第3ピリオド終了。

第4ピリオドになると、長浜北星の⑦水谷君は完全に自分のペースをつかんだようで、2人でマークされても彼特有のフットワークでかわしてシュートを連発。このピリオドで3点を奪いました。埼玉栄の選手交代時の守備連携にも課題がありましたが、それをかいくぐれる個人技の高さは光っていました。

試合は終始、埼玉栄ペースで展開し、埼玉栄23-9長浜北星で埼玉栄の圧勝。組織的ディフェンスからの速攻で準決勝に挑むことでしょう。

記録者

土居 陽治郎

平成28年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会(水球)
第84回日本高等学校選手権水泳競技大会(水球)

水球競技戦評

期日：平成28年8月17日(水)～20日(土)

会場：児島マリンプール

ゲームNo.

14

帽子の色 白

大分商業高校

5

1	-	7
1	-	5
1	-	4
2	-	8
PS		

24

帽子の色 青

秀明英光高校

天候： 薄曇り

審判1： 榎橋 邦広

審判2： 伊藤 晃二

戦評

九州地区1位代表の大分は、1回戦高松南に18-3と快勝しこの準々決勝へ進出です。方や昨年優勝候補の筆頭と目されながら1回戦でまさかの敗退を期した秀明英光は、ノーシードから鳥取中央育英を30-4、シードの鹿児島南を18-4とメンバー全員が機動力を発揮した展開で勝ち上がり、昨年大阪に置き忘れたものを取り戻すため頂上を目指しています。

大分商は、秀明英光のカウンターケアで②川本君③久米君フローター⑤岩崎君3トップで攻め、チャンスをうかがうシステムを採ります。これに秀明英光は、ダブルチームなどで対応しボールを奪うとカウンターからスピード感のあるアーリーOFを繰り出し、⑩コップ君などが得点して行きます。4-0となったところで、たまらず大分商はTOLして修正を指示しますが、その後も秀明英光⑩コップ君⑪河村君④鈴木君が次々と加点します。しかし大分商も秀明英光のノーファールプレスをかいくぐりながら、絶妙なアシストパスを受けた⑤岩崎君がPFを誘発、これを決めて得点を奪い反撃開始です。

お互いの出方に慣れやや落ち着いた感はあるものの、秀明英光の猛攻は止まず大分商防戦一方となります。それでも秀明英光カウンターからの強烈なシュートを、大分商GK①藤本君(2年)が良く防いでいます。すると大分商は、⑤岩崎君がゴール前で裏を突いた動きでDFをかわし、アシストを受けてシュートを打ち込みます。しかしこれも秀明英光GK①美坐君の好セーブに阻まれなかなかゴールを割れないじれったい状況が続きます。DFでも秀明英光のカウンターに良く戻り6・5のピンチを守り切ると、居残り気味のノーマークチャンスを⑤岩崎君がしっかり決めて2点目を生み出します。2p終了となり、12-2と秀明英光の大量リードで後半戦へ突入です。

秀明英光は、メンバーを入れ替えながらフィールドプレーヤー全員が非常に機動力のある動きを見せ、最後までスピード感あふれるプレーで得点を重ねました。大分は、終始ひるまずゴールに向かい、③久米君や②川本君からのアシストに⑤岩崎君がゴール前の裏を突いた動きでシュートチャンスを作り、追隨するきっかけを切り開きに行きます。すると、④多田君のカットインからのドライブで相手退水を誘発すると、このチャンスを⑤岩崎が得点し、連携の効いた好プレーも生まれました。

大分商は、それぞれの個性を最大限に発揮して対抗しました。全員でつないだボールを⑤岩崎君に何度も供給し、奪った5得点はすべて岩崎君が決めました。GK藤本君の好セーブから始まりそれぞれの役割分担をしっかりとこなし、果敢にゴールに迫ったひたむきなプレーが印象的でした。

秀明英光は、ポセイドンジャパンのプレースタイルであるパスラインDFからカウンターを彷彿とさせるプレーを随所に見せ、秀明スタイルを貫き勝利しました。頂点まで上り詰めることを期待しています。

記録者

南部 健

平成28年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会(水球)
第84回日本高等学校選手権水泳競技大会(水球)

水球競技戦評

期日：平成28年8月17日(水)～20日(土)

会場：児島マリンプール

ゲームNo.

15

帽子の色 白

金沢市立工業高校

12

1	-	2
5	-	2
2	-	4
4	-	2
PS		

天候： 晴れ

帽子の色 青

明治大学中野高校

10

審判1： 若林 和人

審判2： 福元 寿夫

戦評

スピードのある金沢工業に対して、柔軟な対応を得意とする明大中野がオフェンス・ディフェンス共にどのように攻略してくるかがポイントです。ベスト4をかけたハイレベルな攻防が展開されることは必至です。

第1ピリオド、金沢工業は明大中野のフローター⑥岩崎君にボールを回さないようゾーンディフェンスを展開。その直後7:13⑫宮澤君のフローティングシュートで金沢工業が先制。しかし、その後は試合巧者の明大中野はなかなかカウンターを出せない金沢工業に対して攻防の切り替わり時に退水を誘発し、⑪眞板君がミドルシュートを決める(3:07)。そのままペースのつかめない金沢工業のカウンターのボールをカットし、明大中野④増田君が逆カウンターで得点。明大中野ペースのまま1ピリオド終了(金沢工業1-2明大中野)。

第2ピリオド、明大中野はフローターの⑫宮澤君を警戒して下がっているところを対応しきれずに、サイドから金沢工業⑥高橋君にサイドからシュートを決められ同点。その後はお互いにカウンターを出さずシュートミスが連続し、冷静さを欠く中で両退水の判定が出るなど少し粗さの目立つ試合展開となるも、スピードのある金沢工業が⑧山本君が⑫宮澤君⑦蔦君の連続でカウンターで得点。金沢工業が完全に流れを取り戻しました。しかし、明大中野もカウンターを出し続け、退水を連続で誘発。⑪眞板君、⑤古川君が冷静に退水ゾーンでシュートを決め、なんとか流れを引き戻しました。その後は金沢工業エース④蔭田君が豪快なミドルシュートを決めるなど、攻撃の流れが激しく入れ替わる見応えのある2ピリオドが終了(金沢工業6-4明大中野)。

第3ピリオド、金沢工業は序盤にオフェンスファールやシュートミスを連発する中、明大中野は④増田君、③関屋君のカウンターシュート、コーナースローから大逆へのパスを②熊谷君がワンタッチで豪快にシュートを決めるなど一気に形勢逆転。しかし、その後は一進一退の攻防が続き同点でピリオド終了(金沢工業8-8明大中野)。

第4ピリオド、両チームともに攻防の切り替えやフローターポジション争いでエキサイトしすぎ、両退水が相次ぐ中、審判からも注意が入りました。序盤は明大中野がリードするも、金沢工業が逆転。明大中野も2:59に退水ゾーンで、外から中の両ポストを使う観客を魅了する鮮やかなトリックプレー(⑤古川君→②熊谷君→⑥岩崎君)で、同点に追い付き、一気に流れを取り戻したかのように見えた(2:59)。しかし、金沢工業のエース④蔭田君が後抜けのカウンターを出し、スピードのあるドリブルからミドルシュートを決め、1点リード。最後は⑦織田君のカウンターからのシュートで2点差として、勝利を決定的なものとなりました。

敗れた明大中野はディフェンスの高い適応能力や華麗なパス回しからの巧みなシュートは観客を魅了してくれました。来年も明大中野らしさを保つ中で、シュート決定率を上げるなどのチーム作りを期待します。ベスト4進出を決めた金沢工業は、ポジション争いや攻防の切り替えしでのみ合いでファウルトラブルにならないようスピードを活かした攻撃で初優勝を目指して欲しいものです。

記録者

柳川 洋志

平成28年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会(水球)
第84回日本高等学校選手権水泳競技大会(水球)

水球競技戦評

期日：平成28年8月17日(水)～20日(土)
会場：児島マリンプール

ゲームNo. 16

帽子の色 白

帽子の色 青

大垣東高校

関西高校

5	{	1	-	3	}	6
		1	-	2		
		3	-	0		
		0	-	1		
			PS			

天候： 晴れ

審判1： 木下 晃次

審判2： 井上 嘉隆

戦評

初戦にセンターを中心とした攻撃で宇都宮東に快勝したシード校大垣東が準決勝進出を狙います。対する地元関西は初戦を強烈なプレスからボールを奪い、終始有利に試合を展開してきました。力と力のぶつかりあう、見ごたえのある試合展開が予想されます。

第1ピリオド、関西③徳田君がセンターボールを取り、観客から大きな歓声が上がります。先制したのは関西でした。④児島君のミドルから絶妙なループシュートが決まります(7:39)。負けじと大垣東もループシュートを打ちますが、ポストに嫌われます。大垣東はセンター④高田君にボールに集めますが、関西の素早い下がり思ったように球を出せません。関西は⑦木村君がボールカットからのカウンターを自身で決め3得点目(2:25)。まずは1点が欲しい大垣東は、1ピリ最後に⑧林君がカウンターから逆サイドにミドルを決め、このピリオド大垣東1-3関西で終了。

第2ピリオドの大垣東はセットのアンブレラを少し広げて素早い下がりに対応しますが、関西もステップバックで対応します。関西は⑦木村君から⑥入江君へのハンツァーが決まり、このピリオドも先制します(6:13)。追いつきたい大垣東は③田代君の退水誘発から⑥竹内君が角度のないところから見事に得点します(5:42)。程なくして、逆サイドからのパスを関西⑤片山君がハンツァーで決め引き離します(5:20)。大垣東は上からのシュートを多用しますが決まらず、関西もプレスからボールを奪うもいい形で打ち取りが出来ないので両チーム得点できず、ゲームはロースコアの展開に(大垣東2-5関西)。

第3ピリオド関西の猛攻を凌いで4:18大垣東はカウンターから④高田君が決めて、欲しかったこのピリオドの先制点をもぎ取ります。泳ぎ合いの展開の中、2:54右サイドからドライブしてきた大垣東⑩白濱君が決めて連続得点します。さらにこの⑩白濱君が退水誘発し、④高田君が中からパワープレーを決め3連続得点でこのピリオド同点にまで追いつきます(大垣東5-5関西)。

第4ピリオド先に得点の欲しい場面で、両チームの焦り気味の攻防が続きます。両チームともに決定機も多くなりましたが、大垣東GK⑬安藤君と関西GK①内田君が好セーブし、緊張感ある攻防が続きました。勝利の女神は終盤に動きます。関西②伊藤君がターンオーバー時の退水誘発したところでタイムアウト。ベンチからの指示は”関西スペシャル”。退水セットから高い位置でのパス回しでゴール前の2選手による関西得意のZ攻撃で得点します(2:02)。これが決勝点となり6-5で関西高校が準決勝進出を決めました。

最初から最後まで緊迫感のある紙一重の試合展開でしたが、大垣東のセンターを中心とした強力な攻撃をうまく抑えた関西に軍配が上がりました。

記録者

金原 直樹

平成28年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会(水球)
第84回日本高等学校選手権水泳競技大会(水球)

水球競技戦評

期日：平成28年8月17日(水)～20日(土)

会場：児島マリンプール

ゲームNo.

17

帽子の色 白

埼玉栄高校

10

3	-	4
2	-	3
1	-	3
4	-	5
PS		

天候： 晴れ

帽子の色 青

秀明英光高校

15

審判1： 榎橋 邦広

審判2： 若林 和人

戦評

優勝候補同士、しかも同県対決の準決勝第1試合。両チームともに本日の準々決勝を大差で勝ち上がり、本大会の優勝を占う重要な一戦。午前中の試合は両チームともにメンバー交代を繰り返し、選手の疲労を最小限にとどめてこの準決勝の一番に備えています。関東地区予選では秀明英光が勝利しましたが、前年度優勝校の埼玉栄はこの試合に向けての組織的ディフェンスでどこまで秀明英光の攻撃を抑えられるかがポイントとなります。

第1ピリオドから両チームともによく泳ぎ、スピーディーで見ごたえのある攻防となりました。序盤での埼玉栄の退水攻撃でのシュートミスについて秀明英光④鈴木君がミドルを決めて、秀明英光が先制。すぐに埼玉栄④阿保君がペナルティを誘発して⑩樋爪君が決めて、1-1の同点に。秀明英光は④鈴木君が最前線から最後尾までよく泳いで攻防の起点となって展開します。埼玉栄は④阿保君がサイド突破で勝機をつかもうとしての秀明英光④鈴木君とのマッチアップはスピード感もあって観客を魅了しています。このピリオドはボール接点でのインターセプトで勝った秀明英光が4-3とリードして終了。

第2ピリオドも同様の泳ぎ合いの展開が続きますが、ボール接点で相手の同サイドパスをインターセプトする秀明英光が優位にゲームを進めます。ピリオド序盤には④鈴木君、⑪河村君、⑦田中要君が連続得点。第1ピリオドから連続5得点ということで一気に突き放しました。埼玉栄はシュートミスから⑧長澤君のカウンター(3:36)、その長澤君のインターセプトを起点に⑩樋爪くんの5mシュート(2:56)で2点を返し、秀明英光7-5埼玉栄と2点差で前半を終えました。

第3ピリオドも秀明英光のボール接点で優位に。また、GK①美坐君のゴール前でのパスを前に出てインターセプトしてピンチからチャンスに切り替えるなど、ゲームの主導権は完全に秀明英光側に。ボールを奪ってからのカウンター攻撃に埼玉栄側は戻ることができず、点差を開かれてしまいました。ピリオド後半の3連続得点で、秀明英光10-6埼玉栄とピリオドが進むごとに着実に点差を開く安定した戦いとなりました。

第4ピリオドの序盤はお互いの特徴を生かした攻防となり、点の取り合いとなりましたが、秀明英光がこのピリオドも制して点差を広げ、15-10で同県対決に勝利しました。ボール接点で26本もの奪取をした秀明英光に対し、埼玉栄側は8本にとどまったことが勝負を分けました。特に埼玉栄の同サイドへのパスを読み切ったインターセプトは見事でした。対する埼玉栄は攻撃の芽を摘まれながらも、粘り強く泳いで攻めて10点にまで得点を伸ばした攻撃力は全国トップレベル。秀明英光の決勝戦、埼玉栄の3位決定戦で両チームともに完成度の高い試合を期待したものです。

記録者

土居 陽治郎

平成28年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会(水球)
第84回日本高等学校選手権水泳競技大会(水球)

水球競技戦評

期日：平成28年8月17日(水)～20日(土)

会場：児島マリンプール

ゲームNo.

18

帽子の色 白

関西高校

10

1	-	5
1	-	5
4	-	5
4	-	2
PS		

天候： 晴れ

帽子の色 青

金沢市立工業高校

17

審判1： 福元 寿夫

審判2： 佐藤 國寛

戦評

23年ぶりに準決勝に進出した開催県の関西高校と、5年ぶりに準決勝に勝ち進んだ金沢工業。お互いに、準々決勝が大激戦だったけどどこまで疲労回復ができていないかがポイントになります。実力的にはスピード、展開力、さらにはシュート力のいずれも金沢工業が上回るだけに、関西高校としてはいかに失点を抑えてロースコアのゲーム展開に持ち込めるかにかかっています。

第1ピリオド、不正スタートで混乱した関西のすきを突いて金沢工業④蔭田君が決め、続いて関西側の攻撃権放棄から、さらにカウンター攻撃でのシュートミスも突いて金沢工業②新田君が連続得点。関西は金沢工業の攻撃中反則から攻勢に出て、左サイドから右サイドのレフティによるスクリーンプレーへパスが通り、④児島君がストレートコースに決めて1点を返します。しかし、金沢工業の壁は厚く、第1ピリオドは5-1と金沢工業が余裕を見せての展開となりました。

第2ピリオドも関西の得点源である主将④児島君は外周位置からドライブできません。仕方なくミドルやループを放ちますがそこを逆に突かれて、点差を広げられます。ここまで好セーブを連発していた関西GK①内田君も、金沢工業④蔭田君のコースを打ち分けるシュートには対応できず、得点を許してしまう苦しい展開が続きます。結局第2ピリオドを終えて金沢工業10-2関西とやや一方的な展開になりました。

第3ピリオドも金沢工業④蔭山君のクロス、同サイドに打ち分けるシュートが決まり、ピリオド前半で4連続得点で差が12点差にまで広がります。ここで金沢工業が大幅にメンバー交代したことで、関西④児島君へのマークが緩み、ドライブで前進できるようになるとペースは関西側に。3:29の④児島君のドライブによる得点を皮切りにピリオド後半で4得点(第3ピリオド終了時、金沢工業15-6関西)。

第4ピリオドは両チームともGKを交代させますが、関西のGK⑬稲田君が金沢工業のシュートを防ぎ、徐々に関西側の攻撃が機能し始め、攻撃の起点に④児島君が絡めるようになったことで、ピリオド勝負では4-2と金沢工業を上回りました。こうした後半の攻撃リズムは次の3位決定戦に向けての好材料となったものと思われます。最終的には実力的に上回る金沢工業が17-10で勝利し、5年ぶりの決勝進出を決めました。

数年来、高校水球界において実力的に競り合ってきた金沢工業と秀明英光との決勝戦となりましたが、好ゲームを期待したいものです。

記録者

土居 陽治郎